

校園名：奈良女子大学附属幼稚園

所在地：〒631-0036 奈良市学園北1丁目16-14 電話番号：(0742) 45-7261

記載日：平成28(2016)年5月11日 記載者：飯島 貴子 記載者役職：副園長

奈良女子大学の特色

「100年の伝統と教育財産を活用した21世紀型教育システムの研究開発」

3歳から27歳までの25年間の学びを見通し、

幼小・中等・大学 学校種間をつなぐ連接力カリキュラムの開発・推進をしています。

校風、特色について

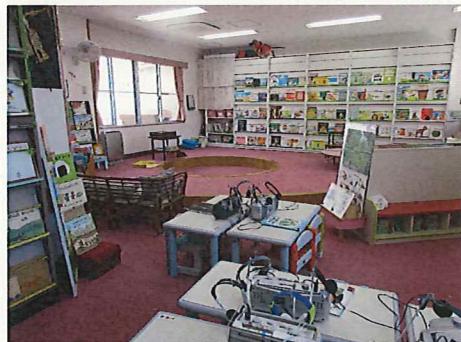
子どもが育つ「自由選択活動」の充実 ——時間・空間・仲間——

◆子どもの主体性と個性を伸ばすとともに協働性を育てる幼稚園

「生き生きとした明るい子ども」「考えてやりぬこうとする子ども」

「美しくあたたかい心の子ども」を教育目標（望ましい子どもの姿）として設定しています。教育環境を整え、子どもの個性を伸ばし集団の中の一員として円満な成長や発達を助長し、将来のよき社会人を育成します。

◆五感を養える豊かな自然環境と情操を養う絵本の部屋がある幼稚園



宅地の中にあって、森のように樹木や草花がたくさんあり、生物界の頂点である鷹をはじめ、野鳥や昆虫など生き物もたくさん棲む幼稚園です。

豊かな情操を養うことを目的に、絵本の部屋があります。専属の教師がいて子ども達がいつでも読みたい時に絵本を読める環境を作っています。

幼児期に自然環境に関わって五感を研ぎ澄まし、感性を養うことで、思考の芽生えを育むと考えています。

◆常に先進的な課題をもって実践・研究する幼稚園

大正時代から幼児教育の先進的な研究の拠点であり、教育課程を作成して実践現場にモデルを提示する役割を担ってきました。最近の研究では、保育活動における子ども理解のサイクル（看とり・記述・評価）のあり方、独創的でねばり強い思考力の育成、異年齢活動の教育課程作成などを行っています。また、昭和 20 年 5 月に 3 歳児教育の重要性と研究的な立場から、いち早く 3 歳児保育を開始したり、昭和 52 年には少子化・核家族化・遊び場の喪失等の時代背景から異年齢保育を実施したり、現在では、幼小一貫教育を行ったりするなど、常に先進的な課題をもって研究をしています。

◆文部科学省研究開発学校……平成 18～20 年度「ねばり強い思考能力の育成」、平成 21～23 年度「論理的思考力の育成」のテーマで、研究開発学校の指定を受けています。平成 27 年度から 4 年間は、「『生活学習力』を育成する教育課程の研究開発」をテーマに、研究を進めています。「生活学習力」とは、自分や自分の周りの生活を見つめ、生活を向上させようとする動機から問題を設定し、その問題を解決するためにも具体的な計画を立て、長期にわたってねばり強く追究して生活を変えていく力を意味します。次の三つの柱が中心です。

○「学び文化の伝承」：「なかよしタイム」（3～5 歳児）、「なかよしひろば」

（5 歳児・1 年生・2 年生）「なかよしラボ」（3～6 年生）の異学年による協同活動や協働学習を設け、異学年による学びの互恵性と、学ぶことにおける社会的責任や役割を経験する。

○「自律的な学びに向かう力を育てる」：自ら遊びを選択する、選択した遊びにめあてをもつ、めあてを達成するために試行錯誤しながらねばり強く取り組む、自分の決めたことに責任をもつ、友達と見通しをもって協同的に活動を進める、自分の感情をコントロールするなど、非認知的能力の育成に努め、小学校以降の学習の基盤を作る。

○「生活学習力の基盤の育成」：目の前の環境に自らかかわり、多様で豊富な体験を蓄積することで「生活学習力」の基盤を作る。

★幼小一貫教育を行う学校です。

幼稚園・小学校は幼小一貫教育を行い、幼小の教師が協働して9年間の子どもの発達を見通して2-3-4制による教育を行い、「幼小一貫教育カリキュラム構造の再分節化」の研究を進めています。

特色ある取組（奈良女子大学附属学校園）

附属幼稚園・附属小学校 研究開発概念図

幼小一貫教育カリキュラム構造の再分節化

3-6制から2-3-4制へ

大正自由教育からの100年の伝統と実践を基に、幼小一貫教育の中で培う、異年齢による学びの探究力と、生活から学びを立ち上げる生活学習力を身につけ、自律的に学びを進める子どもの育成



★ 地域に貢献しています

◆大学と連携して、地域に貢献しています。

奈良市の幼稚園が平成 27 年度からこども園になり、3歳児保育が本格化しました。昭和 20 年からすでに 3歳児保育の実績がある当園が奈良市内の幼稚園・保育所・こども園対象に毎年 3歳児の公開保育研究会をしています。



平成 25 年度 2 回開催(6月、11月) 参加者数 69 名

平成 26 年度 1 回開催(11月) 参加者数 44 名

平成 27 年度 1 回開催(10月) 参加者数 33 名

◆奈良県の幼児教育の研究の場・教員研修の場になっています。

副園長が奈良県幼児教育研究会の研究紀要作成委員長になり、奈良県の幼児教育の研究を進め、隔年で研究紀要を刊行しています。参加教員にとっては、研修の場になっています。

◆カンガルー広場（毎月 1 回、長期休暇中 5 回）、親子で遊ぼう（毎年 7 月）は地域の親子の交流の場になっています。また、カンガルー劇場では、当園の保護者が人形劇やコーラスなどの文化活動の成果を、地域の子どもや保護者に披露しています。

附属学校の存在意義、本園の存在意義

◆常に先進的な課題をもって実践・研究を 100 年以上続け、発信している幼稚園

大正期より、常に先進的な課題をもって幼児教育の実践・研究をしています。全国対象に、また大学と連携して奈良市内の幼稚園・保育所・こども園対象に公開保育研究会を行い、幼児教育のモデルとなっています。

◆全国に先駆けて幼小一貫教育を研究している学校園

「奈良の学習法」を実践している小学校とだからこそできる、幼小一貫教育を進めています。